

# 産業別四半期見通し調査結果

## (2016年 1-3月期見通し)

<機械関連業種は先進国向けを中心に底堅く推移、観光業は雪不足に懸念も概ね堅調。>

### ■ 県内産業天気図

#### ◇ 2015年10-12月期の現況

▶ 全19業種中、「薄日（順調）」が2業種、「曇り（普通）」が15業種、「小雨（低調）」が2業種となった。

#### ◇ 2016年1-3月期の見通し

▶ 全19業種中、「薄日（順調）」が2業種、「曇り（普通）」が15業種、「小雨（低調）」が2業種と、横ばい見通しの業種が多い。

天気図記号	2015年 7-9月期	10-12月期現況	1-3月期見通し
 (好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 (順調)	3 業種	2 業種	2 業種
 (普通)	14 業種	15 業種	15 業種
 (低調)	2 業種	2 業種	2 業種
 (不調)	0 業種	0 業種	0 業種

### ■ 1-3月期見通しのポイント

- ▶ 製造業のうち**工作機械**や**産業用機器**など機械関連の業種は、中国をはじめアジア向けは軟調に推移するとみられるが、国内で設備投資の動きが底堅いことや、北米地域の自動車産業が堅調なことから、「曇り（普通）」を維持する見込み。**自動車部品**も中国の景気減速のほか、東南アジア向けが低調に推移するものの、北米向けが市場をけん引することが期待されることから「曇り（普通）」を見込む。
- ▶ **旅客**は、タクシーで利用控えが続くものの、県内を訪れる外国人観光客が増加傾向にあることや、原油安の恩恵を受け収益環境が改善していることなどから「薄日（順調）」が続く見込み。**ホテル・旅館**も同様に、外国人観光客と1月から放送開始の大河ドラマ需要に下支えされ、宿泊客が堅調に推移するとみられることから「薄日（薄日）」を見込む。

照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所  
調査部（担当：桑井、庄田）

TEL 026-224-0501



# <産業別天気図一覧(19業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。

■調査期間：2015年12月中旬～16年1月中旬      ■調査回答企業：県内主要企業19業種の139社

業 種	前期 (7-9月期)	今期 (10-12月期)	来期 (1-3月期)
工 作 機 械			→
半 導 体 製 造 装 置			→
産 業 用 機 器			→
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス			→
自 動 車 部 品			→
光 学 ・ 計 器			→
プ ラ ス チ ッ ク 製 品			→
飲 料 製 造 ( ノ ン ア ル コ ー ル )			→
清 酒 ・ ワ イ ン			→
味 噌			→
そ の 他 食 料 品 製 造			→
機 械 器 具 卸			→
大 型 小 売			→
自 動 車 販 売			→
公 共 工 事			↘
民 間 工 事			→
旅 客			↘
貨 物			→
ホ テ ル ・ 旅 館			→

# 当研究所の注目業種

	1-3月期見通しの注目ポイント
<b>自動車部品</b> 	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 国内は、軽自動車の販売が低調に推移しており、軽自動車向けの受注回復には時間を要するとみられる。一方で、普通車は人気車種のモデルチェンジによる新型車効果が期待されることから、全体として底堅く推移する見通し。</li><li>▶ 海外は、中国で自動車取得税の減税政策の実施により需要が下支えされているが、景気減速の影響から受注の先行きが懸念される。加えて、東南アジア向けは低迷しており、アジア圏で弱含むとみられる。そうした環境下、北米向けの受注は堅調を維持しており、市場のけん引役として期待される。</li></ul>
<b>ホテル・旅館</b> 	<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 暖冬の影響で雪不足のため、年始はスキー客の出足が鈍く、書き入れ時となる1月上旬の落込分を、今後いかにカバーできるかが焦点となる。</li><li>▶ そうした中、オーストラリアやアジア諸国から訪れる外国人観光客は増加傾向にある。予約状況は年始の雪不足に関係なく順調で、昨年を上回る入り込みに期待がかかる。</li><li>▶ また、1月からNHK大河ドラマ「真田丸」の放送が始まった。今後、舞台となる上田地域がメディアで紹介される機会も増えると予想され、宿泊利用の増加が期待される。</li></ul>

# 長野県の産業天気図 (県内主要19業種の動向)

一産業別四半期見通し調査結果 (2016年1月～3月期見通し) 一

<産業別調査結果>

天気図記号	現況(10-12月期)	見通し(1-3月期)	方向感	19業種中
(好調)	0業種	0業種	↑ 上昇	0業種
(順調)	2業種	2業種	↗ やや上昇	0業種
(普通)	15業種	15業種	→ 横ばい	17業種
(低調)	2業種	2業種	↘ やや下降	2業種
(不調)	0業種	0業種	↓ 下降	0業種


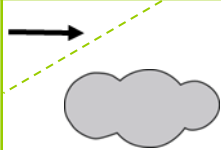
業種	現況(10-12月期)	見通し(1-3月期)	業種	現況(10-12月期)	見通し(1-3月期)	業種	現況(10-12月期)	見通し(1-3月期)
工作機械		→	飲料製造 (ノンアルコール)		→	公共工事		↘
半導体製造装置		→	清酒・ワイン		→	民間工事		→
産業用機器		→	味 噌		→	旅 客		↘
電子部品・デバイス		→	そ の 他 食料品製造		→	貨 物		→
自動車部品		→	機械器具卸		→	ホ テ ル ・ 旅 館		→
光学・計器		→	大 型 小 売		→			
プラスチック製		→	自 動 車 販 売		→			

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内対象の企業経営者が業界の景気をどうみているかをアンケート調査とヒアリング調査を基に、当研究所が判断した。  
 ■調査期間：2015年12月中旬～16年1月中旬  
 ■調査回答企業：県内主要企業19業種の139社


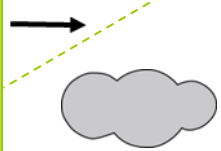
## 工作機械 : アジア向けは弱含むも、国内や先進国向けは底堅い推移が見込まれる

現 況	国内は、政府の投資促進策の効果が一巡したことや中国の景気減速により投資マインドが悪化した。ただ、企業の設備投資の動きは底堅く、工作機械の受注も同様に推移した。海外は、自動車関連の生産が旺盛な北米地域向けの機械需要が順調に推移したほか、欧州向けも底堅かった。一方、景気減速している中国の設備投資の動きは弱く、機械需要は落ち込んだ。東南アジアについても、タイやインドネシアで自動車生産の回復が遅れていることもあり、機械の引き合いは弱かった。
見 通 し	国内は、企業の設備投資の動きが底堅いことから、自動車関連向けを中心に機械需要は横ばいで推移するとみられる。海外は、引き続き米国の自動車産業が順調で、北米地域向けの機械需要がけん引役となる。地域ごとに差はあるものの、欧州向けも全体として底堅い推移が見込まれる。一方、中国は設備投資の動きが弱含んでいること、受注環境が好転する材料も乏しいことから厳しさが続く見通し。東南アジアも同様に、タイやインドネシアなどの機械需要は低調な動きにとどまる見込み。


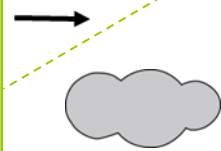
## 半導体製造装置 : 半導体の在庫調整により、装置需要は弱い動きが続く

<p>現況</p>	<p>国内はスマートフォン向けや車載用の電子制御装置向けなど高品質な半導体製品の開発・製造に持直しの動きがみられるが、総じて設備の過剰感が続いており装置需要は低調に推移した。海外は、台湾などを中心にスマートフォンやタブレット端末向けの半導体製造が底堅いものの、中国の景気減速の影響などから在庫調整の動きもあり、全体的に装置需要は盛り上がり欠けた。一方、高度に薄型化・小型化された半導体製品等の製造に用いられる高付加価値装置の需要が国内外の一部でみられ、収益の下支えにつながった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内はスマートフォン向けや車載向けなどの高品質な半導体製造が比較的堅調なもの、全体では過剰設備に加えて経済環境の先行き懸念などから、製造装置の新規投資に対して慎重な姿勢が続くとみられる。海外は、スマートフォンで完成品メーカーの在庫調整から半導体受注が減少し、装置需要も弱い動きが続く見込み。ただ、高精度で付加価値の高い半導体製造装置に対しては引き続き国内外で一定の需要が見込まれることから、収益の確保に寄与することが期待される。</p>
	


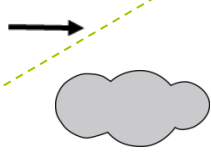
## 産業用機器 : 新興国向けを中心に弱含んで推移

<p>現況</p>	<p>車載関連機器は、国内は軽自動車向けで低調な推移が続いたが、ハイブリッド車向けなどで需要の増加がみられた。海外は新車需要の旺盛な北米向けが順調だったものの、中国向けでは景気減速の影響などによる受注減少の動きもあった。産業用ロボットなどのFA機器や工作機械向けは、国内は生産ライン等への設備投資が堅調に進んだが、海外は中国向けなどを中心に落ち込みがみられた。水冷装置や空調機器などは底堅く推移した。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、国内外いずれも低調な動きが続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>車載関連機器は、国内は軽自動車向け需要の落ち込みが続くものの、ハイブリッド車向けなどは堅調な見通し。海外は引き続き北米向けが順調な推移となるも、中国を中心とする新興国向けは需要が落ち込むと予想され、全体では受注の減少が懸念される。産業用ロボットなどのFA機器や工作機械向け、及び水冷装置や空調機器などは、国内は設備投資に伴う底堅い需要が期待されるが、海外需要は引き続き弱含むとみられる。給湯器などの住設機器は国内外の需要が振るわず、低調に推移する見通し。</p>
	


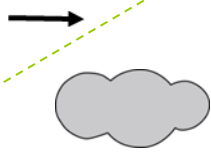
## 電子部品・デバイス : スマートフォン向けは受注減少するも、自動車向けは堅調

<p>現況</p>	<p>自動車向けは、完成車需要が北米を中心に安定しているほか、県内部品メーカーも参入を進める中、受注は安定的に推移した。スマートフォン向けは、年末の需要期に向けた部品受注が増加した。しかし、全体に完成品需要の一服感があり、一部メーカーの大幅なモデルチェンジにより好調だった前年を下回った。家電向けは納入先である日系完成品メーカーの不振から、年末の需要期に向けた受注増加は限定的となった。パソコン関連は個人向けの需要減少から、前年を下回って推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車向けは北米を中心とする安定した完成車需要に加え、衝突回避システムや燃費向上を目的とした電子化から1台当たりの電子部品搭載量が増加しており、堅調に推移する見通し。スマートフォン向けは、日本製部品の採用拡大や中国の春節に向けた販売促進の動きはあるものの、年度末に向けて部品受注が減少する時期を迎えるのに加え、一部完成品メーカーが当初計画より減産を発表しているため、前年を下回って推移する見込み。家電向けは、日系完成品メーカーからの受注は引き続き低調となるとみられる。</p>
	


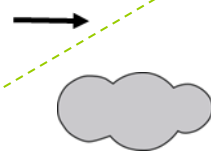
## 自動車部品 : 東南アジア向けは低調に推移するも、北米向けが市場をけん引

<p>現況</p>	<p>国内は、売れ筋車種のモデルチェンジにともなう新型車効果により、受注が増加した企業が一部でみられた。ただ、軽自動車向けは低調に推移しており、全体として国内市場は弱含んだ。海外は、15年における米国の自動車販売台数が過去最高となるなど、北米向けの部品受注が堅調に推移した。また、景気が減速している中国は、自動車販売のテコ入れ策として取得税の減税を打ち出したことで需要が下支えされ、堅調な受注を維持する企業もみられた。東南アジア向けは、インドネシアやタイの需要が上向かず、低調な推移となった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国内は、年度末の需要期に入ることや、新型車効果による需要拡大によって底堅く推移する見通し。しかし、売れ筋車種向けの受注の有無により差が出るほか、軽自動車向けについては、受注回復に時間を要するとみられ、低迷が続くとみられる。海外は、北米向けは堅調な需要が見込まれ、引き続き市場のけん引役となる。中国向けは、減税策による効果が続くともみられるが、景気減速の影響により受注の先行きが懸念される。東南アジア向けは、インドネシア、タイともに完成車需要が引き続き低調な見通し。</p>
	


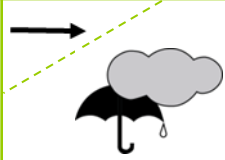
## 光学・計器 : 産業用を中心に堅調を維持する

<p>現況</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは通信回線装置向けが海外を中心に好調であった。半導体製造装置向けは、中国の景気減速の影響からやや落ち込みがみられた。プロジェクターは映画館をはじめ大型施設等で高精細な画質に対応した高付加価値品への入れ替えが進み、販売を伸ばした。自動車向けは新車の売り上げが好調な北米を中心に、海外向けが底堅かった。スマートフォン向けは納入先ごとに好不調の波があるものの、前年並みを維持した。計器関連は国内向けを中心に産業用機械向けや、更新サイクルの需要期に入っているガスメーターが堅調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>光学機器関連のうち、産業用レンズは事業者向けの高付加価値プロジェクターや通信回線装置向けが引き続き好調を維持する。半導体製造装置向けは設備投資への慎重な姿勢もみられ、伸び悩む見込み。自動車向けは北米を中心に完成車の好調な販売が続き、受注は安定的に推移する。スマートフォン向けについては一部完成品メーカーに減産の動きがあるものの、新製品向けの受注が立ち上がっている企業もあり、落ち込みは限定的となる見込み。計器関連は国内での産業用機械向けが堅調に推移すると見込まれる。</p>
	

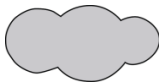
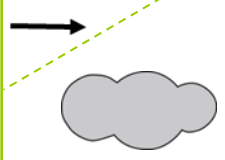
## プラスチック製品 : 自動車向け、容器類を中心に堅調

<p>現況</p>	<p>自動車関連は、北米など海外向けの完成車需要が安定しており、全体として堅調に推移した。OA・情報関連は、文具品向けやトナーなど複写機向けを中心に受注は安定していた。スマートフォン向けは年末の需要期に向けた部品受注が増加したものの、完成品需要の一服感があり、好調だった前年を下回った。工作機械向けは、中国や東南アジアなどの機械受注の鈍化から減少した。容器類は化粧品向けが外国人観光客の増加を背景に好調に推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>自動車関連は北米を中心に完成車需要が安定しており、全体として堅調な受注を見込む。OA・情報関連は、複写機向けや文具品向けが安定して推移する。スマートフォン向けは、一部で来期の新製品に向けた部品受注が立ち上がるとみられるが、一部完成品メーカーの減産の影響も懸念され、好調だった前年を下回る見通し。工作機械向けも中国や東南アジアなどの機械需要の低迷から受注減少が予想される。容器類は外国人観光客の増加から、化粧品向けの受注が引き続き好調に推移する見込み。</p>
	


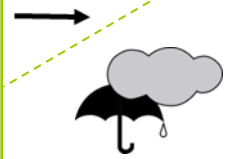
## 飲料製造(ノンアルコール) : 価格転嫁が進まず厳しい収益環境は続く

<p>現 況</p>	<p>ミネラルウォーターや茶系飲料など清涼飲料水の動きは例年並みであったが、暖冬の影響からホット飲料の需要は鈍く生産が伸び悩む企業もみられた。一方で、好天に恵まれたことで観光客の客足が伸び、土産物品の果実・野菜飲料が堅調だった。また、飲料の製造に用いる重油の価格が下落基調にあり、製造コスト減少の恩恵を受ける企業もみられた。ただ、保管・運送などの物流コスト、容器など資材価格は高止まりしており厳しい収益環境が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>暖冬の影響から、ホット飲料の追加生産は少量にとどまる見込み。清涼飲料水は、例年並みの水準を維持するみとみられる。果実・野菜飲料は底堅く推移する見通し。原油価格の下落により、製造コストの減少が期待される。ただ、依然として物流コストや資材価格が高止まっていること、価格転嫁も難しいことから、厳しい収益環境は続くとみられる。また、暖冬の影響で果樹の開花時期が早まる可能性があり、作柄を懸念する声が聞かれる。</p>
	


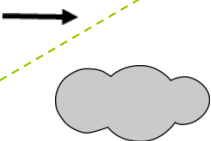
## 清酒・ワイン : 新酒需要高まるも、コストの高止まりで厳しい収益環境が続く

<p>現 況</p>	<p>清酒・ワインともに新酒醸造が本格化する中、年末の最需要期を迎え販売量は増加した。清酒は、消費の減少傾向が続く普通酒で前年の販売水準を下回ったものの、純米酒や吟醸酒などの特定名称酒が歳暮需要なども含めて堅調だった。ワインは、消費者の間で国産原料を用いた日本ワインへの評価や関心が高まっていることから、販売量は安定的に推移した。しかし、清酒・ワインともに瓶やダンボールといった資材価格などが高値で推移しており、収益の圧迫が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>清酒は、特定名称酒などを中心に新酒や地域限定商品などで需要喚起を図り、前年並みの販売量を確保する見通し。ワインは、新酒の発売に伴う各社の販売促進から安定した販売量が期待される。ただ、日本ワインの需要増加に対し原料となる国産ぶどうの供給が不足しており、大幅な売上増加は困難な状況が続く見込み。清酒・ワインともに新酒の醸造が続く中で仕入コストは高止まりしており、価格転嫁の動きが一部の新製品等にとどまっていることから厳しい収益環境が続くとみられる。</p>
	


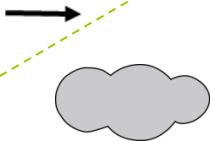
## 味噌 : 加工食品や春の新商品による販促に期待

<p>現 況</p>	<p>例年と比べて暖かい日が続いたため一部の商品では販売が減少したが、全体的な売り上げはほぼ前年並みとなった。大手を中心に即席味噌や、減塩や無添加などの健康に配慮した商品の販売が増加した。中小メーカーの中には生味噌のほか、事業者向けの加工味噌や飲食部門などで販売を伸ばした企業もみられたが、大手メーカーの寡占状況であり、全体として低調に推移した。大豆、米などの原料価格が安定しているほか、燃料価格の低下や暖冬に伴う発酵室用の暖房費が減少したことなどから、前年比では利益が改善した企業もみられた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>暖冬の影響から需要の減少が懸念されるほか、大手メーカーの寡占と即席味噌への需要シフトは続く見込み。中小メーカーは加工食品や事業者向けの調理味噌などで販路開拓を進め、また、大手メーカーは春先に向けて新商品の発売による販売促進を図るとみられる。原料価格については、国産大豆価格の高止まりが見込まれる。しかし、輸入大豆の価格が足元でやや軟化しているほか、原料米の価格も低い水準で推移するとみられ、収益面では安定した状態が続く見込み。</p>
	


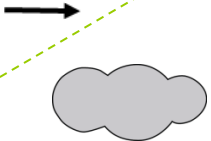
## その他食料品製造 : 原材料価格の上昇に一服感、収益の改善に期待

<p>現況</p>	<p>大豆関連製品は、健康志向により堅調な販売量が維持されたことに加え、価格転嫁が進展したことなどにより収益環境は改善した。コンビニ向け惣菜は、好天にともなう行楽需要などから、前年を上回る販売量を確保した。加工肉は、前年の販売量を下回ったが、原材料価格の相場が下がったことなどにより、収益が改善した企業もみられた。シリアル向けのドライフルーツなど乾燥食品は、販売量は堅調に推移したが、原材料価格の高止まりが続いた。製粉は、そば粉の原料となる玄そばの輸入価格の高止まりが続き、収益を圧迫した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>大豆関連製品は、堅調な需要に加え、原材料価格が軟化していることから収益環境の改善が続く見通し。コンビニ向け惣菜や乾燥食品は、前年並みの販売量を維持するとみられる。加工肉は、原材料価格が安定し、販売量も回復に向かうことから堅調な推移が見込まれる。製粉のうち、そば粉は高止まりする原材料価格に対する価格転嫁を進めるが、一部にとどまる見通し。全体として、原材料価格の上昇に一服感がみられ、収益の改善が期待される。</p>
	

## 機械器具卸 : 機械関連および工具類ともに底堅い推移が見込まれる

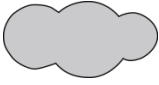
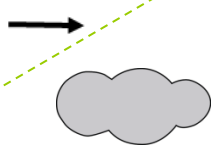
<p>現況</p>	<p>政府の投資促進策の効果一巡や中国の景気減速など先行きへの不透明感が増したことから、工作機械など機械関連の受注は弱含んだ。ただ、維持・更新を目的に企業の設備投資の動きは底堅く、機械需要は自動車関連メーカーを中心に前年に近い水準を保った。工具類など消耗品の受注は安定していた。分電盤や配線機器など電設資材は、庁舎をはじめ公共の大型案件や太陽光発電施設の着工が減少していることもあり販売量が伸び悩んだ。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>工作機械など機械関連の受注は、維持・更新投資や自動車関連メーカー向けを中心に底堅く推移する見通し。また、来年度に向け設備投資の予算建てを行う企業の中には、今後打ち出される政府の投資促進策に期待する声もあり、新たな補助金が示されれば機械需要を下支えするとみられる。工具類などの消耗品は、引き続き安定した受注が見込まれる。電設資材の需要は、公共施設の新設等に関する工事件数も減少が予想されるなど、伸び悩む見通し。</p>
	

## 大型小売 : 食料品は堅調に推移するも、暖冬による影響を懸念


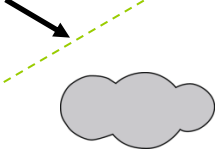
<p>現況</p>	<p>百貨店は、宝飾品などの雑貨が堅調だったほか、法人客が順調だったお歳暮ギフトは前年並みの売り上げとなった。一方、11月以降気温が高い日が続いた影響が大きく、コートなど高単価の冬物衣料が低調だった。スーパーは、生鮮食品が高値で推移するなど食料品の売り上げが増加したほか、総菜なども好調だった。一方、暖冬の影響から使い捨てカイロなどの日用雑貨が振るわなかった。また、新規出店などもあり競合店間の価格競争が厳しくなるなど、収益面は厳しさが続いた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>百貨店は、今後も催事が集客の中心になるとみられ、雑貨などは前年並みに推移する見通し。一方、冬物衣料の不振が続いていることから、在庫処分などセールによる値下げ競争が続けば、収益面への影響は避けられない見通し。スーパーは、暖冬の影響から鍋物食材などの売り上げは期待できないものの、全体への影響は少なく、食料品全体では堅調な推移が見込まれる。一方、気温上昇によって野菜の生育が早まっており、春先には品不足に伴う仕入価格の上昇が懸念される。収益環境は今後も厳しさが続く見通し。</p>
	




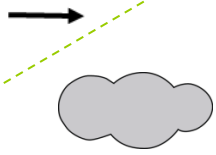
## 自動車販売 : 新型車効果により普通車販売台数は前年を上回る

<p>現 況</p>	<p>普通車は、ハイブリッド車やコンパクトカーなどの低燃費車が販売の中心となった。また、自動ブレーキなどの安全装備搭載車の充実も追い風となり、販売台数は前年をやや上回った。</p>
	<p>軽自動車は全体的に価格が上昇傾向にあり、価格帯が近いコンパクトカーとの競合などから、落ち込みが続いた。中古車は、車両の買い替えサイクルの長期化などから市場に流通する台数が減少し、値上がり傾向にあるものの堅調に推移した。輸入車はディーゼル車の排ガス不正問題による影響は限定的であり、前年並みの販売量となった。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>年度末の最需要期を迎え、各ディーラーではオプションプレゼントや低金利ローン設定などの決算セールを行い、消費者の需要喚起を図る。普通車は人気車種の新型車が販売を伸ばすことから、前年を上回ると予想される。軽自動車はコンパクトカーとの競合もあることから、販売は低調に推移する見込み。中古車については手頃な価格のコンパクトカーを中心に、前年並みの販売量が見込まれる。輸入車は小型車や価格を抑えた車種も充実してきていることから、堅調に推移するとみられる。</p>
	


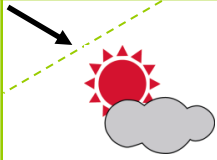
## 公共工事 : 資材価格低下の兆しはあるものの、厳しい収益環境が続く

<p>現 況</p>	<p>これまでに発注された手持ち工事は高い水準にあるものの、新たに発注される工事件数は前年同期を下回り、全体的に工事量は減少した。国発注の工事は、道路関連工事などがみられたものの、大型案件工事が減少したことにより、工事量は前年水準を下回った。県や市町村発注の工事では、学校施設などの改築・改修工事が一巡したこともあり、工事量は減少した。各事業者は、資材の一括発注、工期管理の徹底などにより採算確保に努めたが、収益環境は依然厳しい状況であった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の工事量は、前年水準を下回る見通し。国発注の工事は、土木工事が中心になるものの、大型案件工事の減少が見込まれ、工事量は前年水準には及ばない見通し。県や市町村から発注される工事についても、防災・減災対策関連工事のほか、公共施設の新設などに係る工事件数も減少することが見込まれ、工事量は前年を下回ることが予想される。鉄骨などを中心に高止まっていた資材価格に低下の兆しがあるものの、依然として人件費の水準は高く厳しい収益環境が続くとみられる。</p>
	


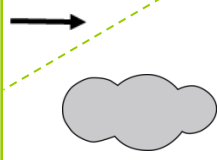
## 民間工事 : 住宅関連では受注増が見込まれるが、設備投資は横ばい

<p>現 況</p>	<p>民間企業の設備投資は、非製造業においては、受注量の増加には至らなかったものの、製造業では、自動車や機械関連の工場などの新設・改修を中心に受注は上向いた。住宅関連では、省エネ住宅ポイント制度が10月下旬に終了したが、リフォーム工事は堅調だったものの新設住宅の受注増にはつながらず、着工戸数は伸び悩んだ。また、資材価格の高止まりに対して、販売価格に転嫁できたのは一部の事業者にとどまり、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>民間企業の設備投資は、非製造業では小売り、製造業では自動車部品やエネルギー関連といった一部企業で投資の動きがみられるが、全体としては横ばいで推移する見込み。住宅関連では、17年4月の消費増税前の駆け込み需要が注文住宅などの一部で出始め、受注は増加する見通し。フラット35Sによる金利優遇期間が1月で終了するが、受注環境に大きな影響はないとみられる。木材などの資材価格が高値圏で推移することが見込まれ、収益面では厳しさが続く見通し。</p>
	


## 旅客 : 外国人観光客の利用増加に期待するも、雪不足が懸念される

<p>現 況</p>	<p>秋の行楽シーズンを迎え、国内旅行需要の高まりと、昨年比で天候に恵まれたことから観光利用が好調だった。貸切バスは観光旅行に加え、遠足や修学旅行といった学校関係の利用も順調だった。高速バスは年末の帰省客や首都圏へのレジャー客、外国人観光客による利用が堅調だった。タクシーは、忘年会等の夜間利用が伸び悩み利用者は低調に推移した。燃料価格は低い水準で推移したことで運行コストが減少し、利益を押し上げた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>スノーシーズンを迎え、貸切バスはスキー客による利用に期待が集まるが、年始の雪不足による伸び悩みが懸念される。高速バスは、首都圏方面へのビジネス客や学生客を中心に前年並みの利用者確保を見込む。県内を訪れる外国人観光客は増加傾向にあり、白馬方面や志賀高原への路線を充実させることでバス利用増加が期待される。タクシーは依然として利用控えの傾向は続く見通し。燃料価格は低下するとみられ、収益環境の改善が見込まれる。</p>
	

## 貨物 : 貨物量は横ばい、燃料価格の低下から収益環境の改善が続く

<p>現 況</p>	<p>全体の貨物量は、やや低調に推移した。自動車部品は、軽自動車の販売不振が続くも、普通車は回復気味であり、荷動きは改善の兆しがみられた。機械関連は、工作機械は堅調に推移したが、建設機械、建設資材は公共工事が前年より減少した影響から低調であった。生活関連は、食品・飲料が年末の需要期を迎え堅調に推移し、日用雑貨も例年並みとなった。燃料価格は低下が続いたことから、収益を押し上げた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>全体の貨物量は、横ばいで推移する見通し。自動車部品は、軽自動車の販売不振は続くが、普通車の回復が見込まれ荷動きはやや持ち直す見込み。機械関連は、工作機械など一部で堅調な荷動きが見込まれるが、建設機械、建設資材は低調な荷動きが続く見通し。生活関連は、食品・飲料、日用雑貨は例年並みとなる見通し。ドライバー不足は依然として続くが、燃料価格は低下するとみられ収益環境の改善が続く見込み。</p>
	

## ホテル・旅館 : 外国人観光客や大河ドラマ需要に期待

<p>現 況</p>	<p>都市部では、観光客・ビジネス客ともに宿泊利用は堅調に推移した。秋の行楽シーズンを迎えた観光地では、旅行需要が高まる中天候に恵まれ、個人客を中心に順調に推移した。12月は雪不足等を背景にスキー場周辺の宿泊利用が減少した地域もあった。ブライダルは需要期であったが、件数・規模ともに前年並みにとどまった。宴会部門は、忘年会シーズンを迎え、利用は前年並みに推移した。外国人観光客による宿泊利用は、円安等を背景に引き続き堅調に推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>都市部では、個人客を中心に予約状況は前年並みに推移し、堅調な宿泊利用となる見込み。観光地では、NHK大河ドラマ「真田丸」の放送開始を受け、舞台となる上田地域を中心に宿泊利用の増加が期待される。一方で、年始の雪不足によるスキー客等の減少により、スキー場周辺のホテルや旅館では、宿泊利用への影響が懸念される。新年会や歓送迎会は、前年と同程度の件数・規模を見込む。外国人観光客は、スキー等を目的とするオーストラリアやアジア諸国を中心に順調に推移する見込み。</p>
